

25年の米国株は高バリュエーションの持続性が焦点



チーフ・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 25年の米国株は緩やかな上昇か？

24年の米国株市場は、堅調な米経済と企業業績を背景に株価は大きく上昇しました。FRB（米連邦準備制度理事会）が利下げに転じたことも投資家心理を支え、S&P500種株価指数やハイテク株主体のNASDAQ100は最高値更新が続きました。

25年の米国株市場は、上昇基調が継続すると想定されます。トランプ次期政権の下で行なわれるとみられる減税やテクノロジーの規制緩和などが、米経済や米企業の利益を押し上げる可能性が高いことがその背景です。市場では現時点で米企業業績が力強く拡大すると見込んでおり、米国株は利益成長に沿う形で上昇基調を維持すると考えられます（右上図）。

ポイント② 高バリュエーションの持続性が焦点に

米国株に死角があるとすれば、それは高いバリュエーションです。S&P500種株価指数は23年からの2年間で60%近く上昇しており（17日時点）、同指数の12か月先予想PERは22倍超と直近10年の上限水準にあります（右下図）。それだけ様々な期待が株価に織り込まれているといえ、高いバリュエーションを正当化するような米企業業績の伸びや米経済の拡大が求められているといえそうです。

仮にトランプ次期政権の関税政策などで米経済が減速するとの見方や、市場をけん引してきた米ハイテク企業の業績の失速が顕在化するようだと、バリュエーション調整から米国株に下押し圧力がかかる展開も想定されます。現時点でS&P500種株価指数の12か月先予想EPSの1年後の増益率は12%増が見込まれています。25年の米国株は増益率以下の上昇率でバリュエーションの過熱をゆっくり冷ましていく1年になるのではと考えています。

S&P500種株価指数と
同12か月先予想EPS（1株当たり利益）



期間：2015年1月2日～2024年12月17日、週次
 ・○印は1年後、2年後の12か月先予想EPS（2024年12月17日時点のBloomberg予想）
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500種株価指数と
同12か月先予想PER（株価収益率）



期間：2015年1月2日～2024年12月17日、週次
 ・12か月先予想PERの22.3倍は2024年12月17日時点のBloomberg予想
 ・1年後、2年後の12か月先予想PERで試算した同PERは2024年12月17日時点の同EPSと株価を基にしたBloomberg予想
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全体の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

野村アセットマネジメントからのお知らせ

■ ご注意

下記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

以下の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

2024年12月現在

ご購入時手数料 《上限3.85%（税込み）》	投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。 投資信託によっては、換金時（および償還時）に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。
運用管理費用（信託報酬） 《上限2.222%（税込み）》	投資家はその投資信託を保有する期間に応じてかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 * 一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 * ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。
信託財産留保額 《上限0.5%》	投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。
その他の費用	上記の他に、「組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

当資料で使用した指数について

●「S&P500種株価指数」はスタンダード&プアーズ ファイナンシャル サービスズ エル エル シーの所有する登録商標です。